

## 地域プロジェクト成果報告書

### 国際政治の観点から持続可能な社会を提案するプロジェクト

#### ① <背景・目的・概要>

前半:北海道新聞の記者の方による講演会や、函館市役所の出前講座をはじめとする様々な視点から、函館や他の地域の原子力発電所の現状について知識を深めた。また、それら講演会をプロジェクトで主催することで、私たち以外の学生や一般の方も持続可能な暮らしについて考える機会をつくるということも目的とした。同時に世界各国のエネルギー政策を調査し、函館という土地を活かし応用できるものはないか、解決策を模索した。

後半:前半での活動から、プロジェクトの方向として、函館への影響が大きい青森県にある大間原発に焦点を当てた。現地での見聞で、大間町民の生活は原子力発電所に支えられており、簡単には切り離せないことを痛感した。そこで、私たちは経済的な原子力発電所からの自立が課題と考え、次世代を担う子どもたちが大間に行くきっかけをつくること、またその際大間でお金を使ってもらうことを目的とした「函館の小学生対象大間ツアー」を函館市役所に提案した。

#### ②<年間スケジュール>

2016年

- 10月 プロジェクト始動  
映画トゥルーコスト鑑賞
- 11月 北海道新聞社 関口さんによる講演を開く「負の遺産～福島のと廃炉、核ゴミの行方～」  
杉浦先生講演会
- 12月 函館市役所の講演会を開く「大間原発に対する函館市の取り組み」  
世界各国のエネルギー政策を調べ発表
- 1月 中間発表
- 5月 こども平和絵画展 まちづくりセンターにてチェルノブイリの子どもたちの絵画を展示
- 6月 大間訪問 市民へのアンケート調査 大間町役場訪問 あさこはうす見学  
映画「原発と再生」鑑賞
- 7月 最終発表  
函館市役所へ考えた提案を報告

#### ③ <プロセスと成果>

前期;私たちは「持続可能」というものをエネルギー政策に焦点を置いて、前期では、各国ではどのようなエネルギー政策が行われているのかを調査した。また、北海道新聞の記者の

方や函館市役所の方の出前講座を開き、原子力発電について学んだ。我が国の電力を賄うために重要な役割を果たしているが、それに伴い福島第一原発事故のような大きな事故を起こす可能性があるということを学ぶきっかけにもなった。

後期；後期では、函館市地域交流まちづくりセンターで行われた子供平和絵画展に参加した。チェルノブイリ原発事故を題材に実際に子供が描いた絵が展示されていて、原発事故があった国として非常に感慨深いものがあった。さらに、私たちは実際に大間町へ訪問した。市役所やあさこハウスに行き、実際に原発のある地域の人に話を聞いた。また、大間町民に対し原発に対するアンケート調査を行い、地域住民の実際の声を聞くことができた。これらの活動を通して、私たちは原発に頼ることのないまちづくりをするための第一歩として、函館の小学生対象の大間ツアーというものを考え、函館市役所に提案した。

#### ④＜反省と総括 今後の課題（後日の市役所訪問を含む）＞

##### 2年後期

2年後期は主に講演会を中心に活動を行い、自分たち自身での調べが多かったため、実質的な行動はあまり行わなかったところが少しもったいなかったと思う。世界各国の原発に対する知識を、3年前期に何かしら地域に向けて実行出来るように意見を言い合えた部分は良かったのではないかと思う。

##### 3年前期

3年前期はチェルノブイリ絵画展、大間での現地調査とその準備を中心にした活動をしたため、充実した活動が出来たと思う。持続可能な暮らしを考えるにあたって、今までの準備と実際に原発近くに住む方々の話を聞くなどのフィールドワークがとても活きた半年になったと感じる。

#### 市役所訪問の報告

今回、今まで1年間の活動を通して、持続可能な暮らしの提案を函館市役所の方と話し合った。私達は、「函館の小学生の大間ツアー」を提案した。この提案を中心に、今後大間と函館の交流についていくつか案が出た。人の交流は半永久的に出来る持続可能なことであるため、そのことに目をつけた私達は、いくつかのツアーの案が出た。「家族で大間の自然を楽しむツアー」や「大間の歴史を見るツアー」などである。私達の提案では小学生をツアーの対象にしていたが、老若男女が楽しめる方が良いという助言を頂き、どの年齢層の方でも楽しめるツアーを考えた。今後の課題として、このアドバイスと私達の提案をもとに、より深く具体的なツアーを作り上げ、次のプロジェクトで実行して欲しいと考える。

#### ⑤＜総括＞

中間発表では、私達の調査した世界各国の原発に対する政策を中心に発表したが、ほとんどが反対意見、またはあまり原発に対して良い印象を抱いていないよう国々の政策が多かった。そのため、原発に対して肯定的な意見が出にくく、中立的な立場が少し難しかった。しかし、大間に訪れる際に、雇用が生まれて、生活を営むという点で原発を肯定する意見について話し合えたことは良かったと思う。また、地域住民の意見を取り入れる活動として、絵の中に自分自身の意見を書いてもらい、地域の方々にも原発のことについて考えて頂いた。そしてそれを、私達も知識の1つとして活動にも取り入れることが出来た部分は良かったと感じる。どちらかの意見に偏らず、講演会、映画、実際の地域住民の声を通して、賛成・反対どちらの意見も受け入れることが出来た活動になったと思う。1年を通して、原発に対して学んだことをこれからの生活に繋げられれば良いと感じる。また、市役所の訪問で提案し、考えたことを含めてこれからも持続可能な暮らしについてより深く考えていきたい。

#### ⑥<メンバー一覧>

担当教員： 宮崎悠 平野恵子

メンバー： 花野優花 菊池紫苑 和田綾香 小川凌 山道一慧 東田舞香 田中愛理 梅木優理子 大澤竜生 下沢杏奈

